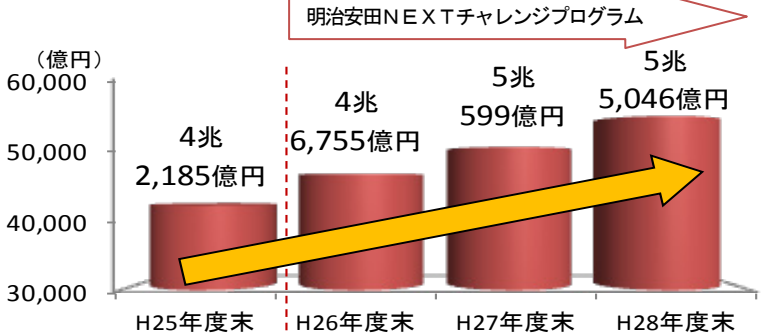
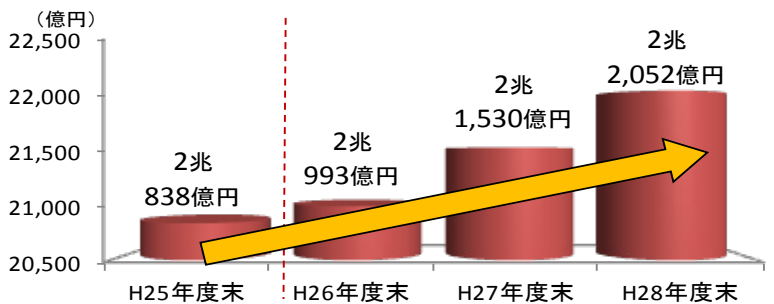
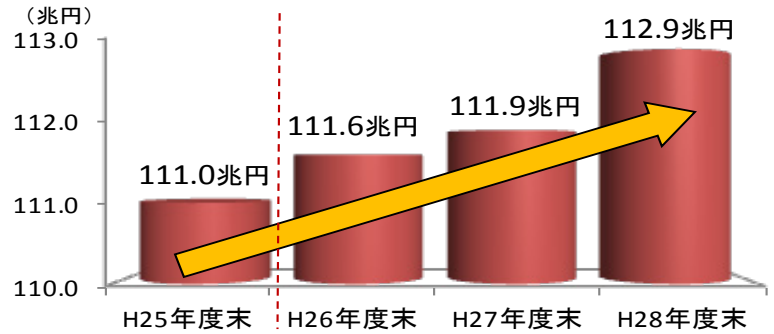


平成28年度決算(案) 説明資料

平成29年5月25日
明治安田生命保険相互会社

I. 「明治安田NEXTチャレンジプログラム(平成26年度～平成28年度)」の振り返り

○「成長性」「収益性」「健全性」のバランスを重視した経営を実践し、中期経営計画の経営目標を概ね達成。次の10年に向けた経営基盤を構築

項目	推移	実績										
企業価値 (EEV)	 <p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>企業価値 (億円)</th></tr> <tr><td>H25年度末</td><td>2,185</td></tr> <tr><td>H26年度末</td><td>6,755</td></tr> <tr><td>H27年度末</td><td>5,599</td></tr> <tr><td>H28年度末</td><td>5,046</td></tr> </table>	年度	企業価値 (億円)	H25年度末	2,185	H26年度末	6,755	H27年度末	5,599	H28年度末	5,046	<p>○目標5兆3,000億円に対し、5兆5,046億円</p> <p>○営業職員チャンネルの新契約業績の伸展、契約クオリティの改善等により、3カ年で約30%向上。経営目標を達成</p> <p>※目標設定時点である平成25年度末の運用環境に基づく値</p>
年度	企業価値 (億円)											
H25年度末	2,185											
H26年度末	6,755											
H27年度末	5,599											
H28年度末	5,046											
保有契約年換算保険料 [個人営業]	 <p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>保有契約年換算保険料 (億円)</th></tr> <tr><td>H25年度末</td><td>838</td></tr> <tr><td>H26年度末</td><td>993</td></tr> <tr><td>H27年度末</td><td>1,530</td></tr> <tr><td>H28年度末</td><td>2,052</td></tr> </table>	年度	保有契約年換算保険料 (億円)	H25年度末	838	H26年度末	993	H27年度末	1,530	H28年度末	2,052	<p>○目標2兆1,980億円に対し、2兆2,052億円</p> <p>○3カ年で約1,200億円増加し、経営目標を達成</p>
年度	保有契約年換算保険料 (億円)											
H25年度末	838											
H26年度末	993											
H27年度末	1,530											
H28年度末	2,052											
団体保険保有契約高 [法人営業]	 <p>(兆円)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>団体保険保有契約高 (兆円)</th></tr> <tr><td>H25年度末</td><td>111.0</td></tr> <tr><td>H26年度末</td><td>111.6</td></tr> <tr><td>H27年度末</td><td>111.9</td></tr> <tr><td>H28年度末</td><td>112.9</td></tr> </table>	年度	団体保険保有契約高 (兆円)	H25年度末	111.0	H26年度末	111.6	H27年度末	111.9	H28年度末	112.9	<p>○着実に保有契約高が純増し、「業界シェアNo. 1」を堅持</p> <p>○「団体年金資産残高」についても、超低金利環境下での販売コントロールにより資産残高の安定的な増加を達成</p>
年度	団体保険保有契約高 (兆円)											
H25年度末	111.0											
H26年度末	111.6											
H27年度末	111.9											
H28年度末	112.9											

I. 「明治安田NEXTチャレンジプログラム(平成26年度～平成28年度)」の振り返り

確かな安心を、いつまでも



項目	推移	実績										
<p>お客さま満足度</p>	<p>【総合満足度】</p> <table border="1"> <caption>総合満足度推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度</td> <td>51.0%</td> </tr> <tr> <td>H26年度</td> <td>53.4%</td> </tr> <tr> <td>H27年度</td> <td>53.1%</td> </tr> <tr> <td>H28年度</td> <td>57.8%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	満足度 (%)	H25年度	51.0%	H26年度	53.4%	H27年度	53.1%	H28年度	57.8%	<p>○総合満足度(「満足+やや満足」の占率)は、57.8%で、過去最高値を記録</p> <p>※「満足」、「やや満足」、「ふつう」、「やや不満」、「不満」から選択</p>
年度	満足度 (%)											
H25年度	51.0%											
H26年度	53.4%											
H27年度	53.1%											
H28年度	57.8%											
<p>お客さま数</p>	<table border="1"> <caption>お客さま数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度末</th> <th>人数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度末</td> <td>662万人</td> </tr> <tr> <td>H26年度末</td> <td>648万人</td> </tr> <tr> <td>H27年度末</td> <td>644万人</td> </tr> <tr> <td>H28年度末</td> <td>658万人</td> </tr> </tbody> </table>	年度末	人数 (万人)	H25年度末	662万人	H26年度末	648万人	H27年度末	644万人	H28年度末	658万人	<p>○お客さま数は、平成28年度に純増反転</p> <p>※営業職員チャンネルにおける生保契約者・被保険者数(損保契約者等は除く)</p>
年度末	人数 (万人)											
H25年度末	662万人											
H26年度末	648万人											
H27年度末	644万人											
H28年度末	658万人											
<p>営業職員数</p>	<table border="1"> <caption>営業職員数推移</caption> <thead> <tr> <th>年度末</th> <th>人数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H25年度末</td> <td>20,865人</td> </tr> <tr> <td>H26年度末</td> <td>20,969人</td> </tr> <tr> <td>H27年度末</td> <td>30,409人</td> </tr> <tr> <td>H28年度末</td> <td>30,889人</td> </tr> </tbody> </table>	年度末	人数 (人)	H25年度末	20,865人	H26年度末	20,969人	H27年度末	30,409人	H28年度末	30,889人	<p>○営業職員数は3万人を上回り、順調に推移 強固な販売・サービス態勢を構築</p>
年度末	人数 (人)											
H25年度末	20,865人											
H26年度末	20,969人											
H27年度末	30,409人											
H28年度末	30,889人											

Ⅱ. 平成28年度業績のポイント

保険料等 収入

○平成28年度は、日銀のマイナス金利政策を背景とする超低金利環境の継続を踏まえ、一時払の貯蓄性商品の予定利率引下げや一部販売休止ならびに団体年金の引受抑制等、資産・負債の計画的なコントロールを実施。保険料等収入は、「減収」となったものの計画通りの実績

基礎利益

○基礎利益は、グループベース・明治安田生命単体ともに「増益」を確保。グループベースについては、平成28年3月に子会社化したスタンコープ社が貢献。単体については、厳しい運用環境下、減益の見通しとしていたものの、危険差・費差の増加に加え、効果的な資産配分の実施等により利差の減少幅を抑えたことから、増益を達成

健全性

○ソルベンシー・マージン比率は、自己資本の充実を目的とした基金の募集、国内劣後債の発行等により、前年度末より増加し、引き続き高い財務健全性を維持

○企業価値（EEV）は、営業職員チャネルの新契約業績の伸展、契約クオリティの改善等により、大幅に増加

社員配当

○個人保険・個人年金保険について、配当率を一部引き上げ

業績 見通し

○平成29年度業績見通しは、今夏に予定している外貨建て保険の販売や第三分野商品の拡販、スタンコープ社の業績貢献により、グループベース、単体とも「増収増益」の見通し

【トピックス】

1. 明治安田生命3カ年プログラム「MYイノベーション^{ニーゼロニーゼロ}2020」等
2. お客さまへのアフターフォローの取組み
3. 「明治安田生命Jリーグ」の取組み
4. 「お客さま志向の業務運営方針」を策定

Ⅲ. 明治安田生命グループの業績

1. グループ保険料、グループ基礎利益

- グループ保険料は、明治安田生命単体の影響を受け、2兆8,663億円と前年度比15.2%の減少 ①
- グループ基礎利益は、平成28年3月に子会社化したスタンコープ社の貢献（240億円）等から、4,962億円と6.5%の増加 ②
- グループ基礎利益のうち、国内保険事業（明治安田生命単体と明治安田損害保険との合算）は、4,754億円 ③
- グループ業績に占める海外保険事業等の割合は、保険料等収入8.7%、基礎利益7.4%と順調に進捗 ④

■ グループ保険料

(単位：億円)

	平成28年度		平成27年度
		前年度比	
グループ保険料 <small>(注1)</small>	① 28,663	△15.2%	33,816
うち国内保険事業 <small>(注4)</small>	26,311	△22.0%	33,730
うち明治安田生命単体	26,158	△22.1%	33,578
うちスタンコープ社	2,265	—	—

■ グループ基礎利益

(単位：億円)

	平成28年度		平成27年度
		前年度比	
グループ基礎利益 <small>(注2) (注3)</small>	② 4,962	+6.5%	4,660
うち国内保険事業 <small>(注4)</small>	③ 4,754	+2.9%	4,619
うち明治安田生命単体	4,723	+2.7%	4,599
うちスタンコープ社	240	—	—

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) スタンコープ社については、平成28年3月（株式取得月）から12月までの10カ月相当額の数値を合算

(注4) 国内保険事業は、明治安田生命単体と明治安田損害保険の合算

■ グループ業績に占める海外保険事業等(国内生命保険事業以外)の割合

④ ■ グループ保険料ベース

平成27年度 0.7% 平成28年度 8.7%

■ グループ基礎利益ベース

平成27年度 2.8% 平成28年度 7.4%

Ⅲ. 明治安田生命グループの業績

2. 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）

- 連結ソルベンシー・マージン比率は、998.9%と、引き続き高い健全性を維持 **①**
- ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）は、4兆5,288億円（前年度末差1兆1,274億円増加） **②**

■ 連結ソルベンシー・マージン比率

	平成 28 年度末		前年度末差	平成 27 年度末
連結ソルベンシー・マージン比率 ①	998.9	+15.2 ポイント		983.7
うち明治安田生命単体	945.5	+7.0 ポイント		938.5

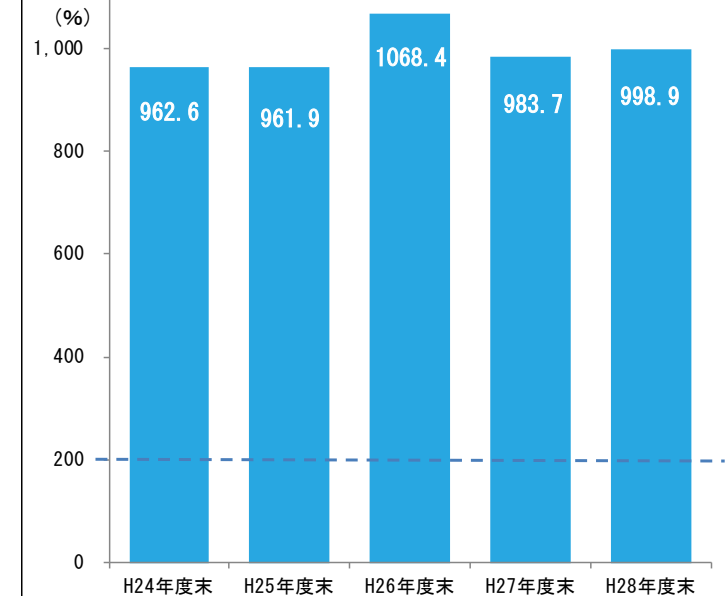
（単位：％）

■ ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）

	平成 28 年度末		前年度末差	平成 27 年度末
EEV ②	45,288	+11,274		34,014
うち明治安田生命単体	47,132	+10,686		36,445
うちスタンコープ社	4,255	+660		3,594

（単位：億円）

① 連結ソルベンシー・マージン比率の推移



（注）「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象

IV. 明治安田生命単体の業績

1. 保険料等収入

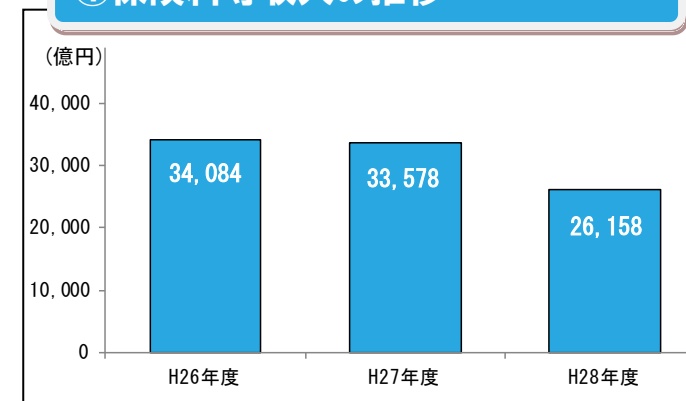
- 保険料等収入は、2兆6,158億円(前年度比22.1%減少) **①**
- 営業職員チャネルの平準払商品の保険料等収入は、前年度比7.9%増加と順調に伸展 **②**
- 超低金利環境を踏まえ、一時払の貯蓄性商品の予定利率引下げや一部販売休止ならびに団体年金の引受抑制等、資産・負債の計画的なコントロールを実施し、計画通りに進捗 **③**

■ 保険料等収入の状況

	平成 28 年度		前年度比	平成 27 年度	
保険料等収入	①	26,158	△22.1%		33,578
うち個人保険・個人年金保険		16,631	△23.3%		21,679
うち営業職員チャネル		13,081	△12.4%		14,941
うち平準払商品	②	12,248	+7.9%		11,356
うち一時払商品	③	833	△76.8%		3,584
うち銀行窓販チャネル		3,114	△50.3%		6,272
うち団体保険		3,130	+0.8%		3,105
うち団体年金保険	③	6,028	△28.4%		8,418

(単位: 億円)

① 保険料等収入の推移



IV. 明治安田生命単体の業績

2. 年換算保険料・保有契約高

- 新契約年換算保険料は、1,799億円(前年度比2.7%減少) **①**
- 営業職員チャンネルは、総合保障商品『ベストスタイル』に加え、『かんたん保険シリーズ ライト! By 明治安田生命』等の販売好調により、前年度比12.7%増加 **②**
- 第三分野新契約年換算保険料は、『ベストスタイル』の新特約発売効果等により、引き続き増加傾向(同0.6%増加) **③**
- 保有契約年換算保険料は、2兆2,500億円(前年度末比2.4%増加) **④**
 営業職員チャンネルの新契約業績の伸展に加え、契約クオリティの改善により、8年連続で純増
- 団体保険の保有契約高は、7年連続で純増し、引き続き業界トップシェアを堅持 **⑤**

■ 新契約年換算保険料の状況(個人保険・個人年金保険)

	平成 28 年度		前年度比	平成 27 年度	
新契約年換算保険料	①	1,799	△2.7%	1,849	
うち営業職員チャンネル	②	1,432	+12.7%	1,270	
うち銀行窓販チャンネル		339	△37.9%	547	
うち第三分野 ^(注1)	③	365	+0.6%	363	

(注1) 第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

■ 保有契約年換算保険料の状況(個人保険・個人年金保険)

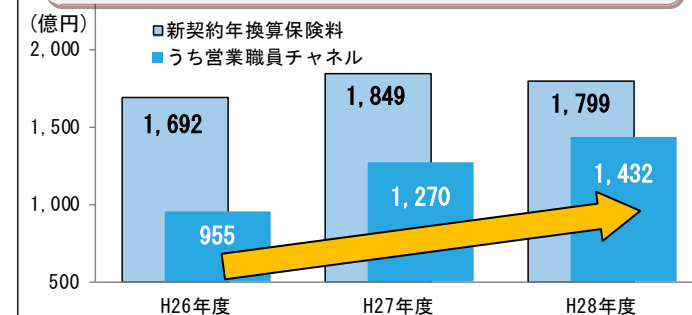
	平成 28 年度末		前年度末比	平成 27 年度末	
保有契約年換算保険料	④	22,500	+2.4%	21,966	
うち営業職員チャンネル		16,099	+3.3%	15,578	
うち銀行窓販チャンネル		5,952	+0.0%	5,951	

■ 保有契約高の状況(団体保険・団体年金保険)

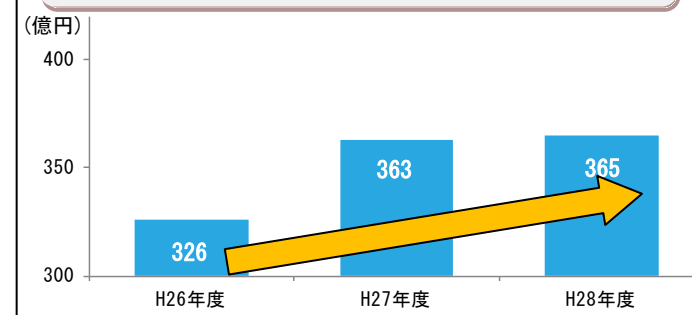
	平成 28 年度末		前年度末比	平成 27 年度末	
団体保険	⑤	1,129,569	+0.9%	1,119,188	
団体年金保険		74,417	+1.3%	73,454	
(国内グループ) ^(注2)		85,870	+2.0%	84,192	

(注2) 国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

①・②新契約年換算保険料



③第三分野新契約年換算保険料



IV. 明治安田生命単体の業績

3. 基礎利益

- 基礎利益は、4,723億円（前年度差124億円増加） **①**
- 単体の基礎利益は、厳しい運用環境をうけ減益の見通しとしていたものの、一時払商品の販売抑制等のリスクコントロールによる危険差の増加に加え、運用環境の好転や効果的な資産配分の実施等により利差の減少幅を抑えたことから、増益を達成 **②**
- 平均予定利率は、前年度末から0.05ポイント低下し、1.92%と2%を下回る水準 **③**

■ 基礎利益等の状況

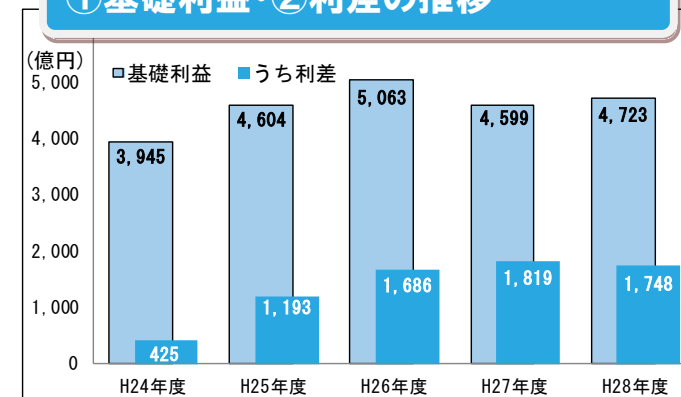
	平成 28 年度	
		前年度差
基礎利益 (A)	① 4,723	+124
利差	② 1,748	△71
危険差	2,816	+137
費差	158	+58
キャピタル損益 (B)	△1,130	+5
臨時損益 (C) (注)	△408	+45
経常利益 (A+B+C)	3,184	+175

(注) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

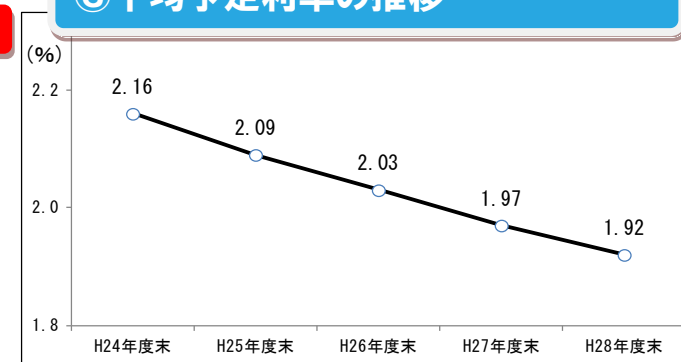
(単位: 億円)

平成 27 年度
4,599
1,819
2,679
99
△1,135
△454
3,009

①基礎利益・②利差の推移



③平均予定利率の推移



IV. 明治安田生命単体の業績

4. 資産運用収支

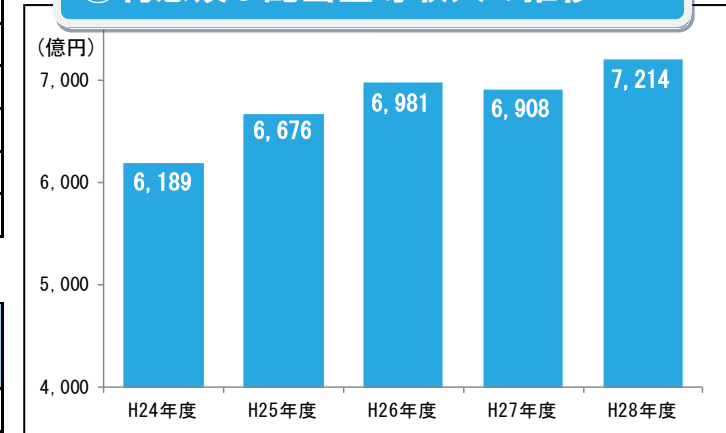
- 資産運用収支（全社）は、6,440億円（前年度差358億円増加） **①**
- 利息及び配当金等収入は、市場動向に応じた効果的な資産配分や資産運用の高度化・多様化および国内外株式の配当金収入増加により、7,214億円と新会社発足以降の最高額を更新（前年度差306億円増加） **②**

■ 資産運用収支の状況

（単位：億円）

	平成 28 年度		前年度差	平成 27 年度	
資産運用収支（全社）	①	6,440	+358		6,081
資産運用収支（一般勘定）		6,282	△88		6,370
一般勘定					
資産運用収益		8,002	+121		7,881
利息及び配当金等収入	②	7,214	+306		6,908
有価証券売却益		216	+132		84
有価証券償還益		566	△320		887
資産運用費用		1,720	+209		1,510
有価証券売却損		320	+301		19
有価証券評価損		120	△7		127
金融派生商品費用		901	△171		1,073

②利息及び配当金等収入の推移



【参考】平成28年度報告の運用環境

	平成 28 年度末		前年度末差	平成 27 年度末	
TOPIX		1,512.60	+165.40		1,347.20
日経平均株価（円）		18,909.26	+2,150.59		16,758.67
10年国債利回り（%）		0.065	+0.115		△0.050
円相場（円/\$）		112.19	△0.49		112.68
円相場（円/€）		119.79	△7.91		127.70

IV. 明治安田生命単体の業績

5. ソルベンシー・マージン比率、実質純資産額、オンバランス自己資本

- ソルベンシー・マージン比率は、基金の募集、国内劣後債の発行により、オンバランス自己資本の充実を図った結果、945.5%と引き続き高い財務健全性を維持(前年度末差7.0ポイント増加) **①**
- オンバランス自己資本は、2兆4,641億円(前年度末差2,747億円増加) **②**

■ ソルベンシー・マージン比率

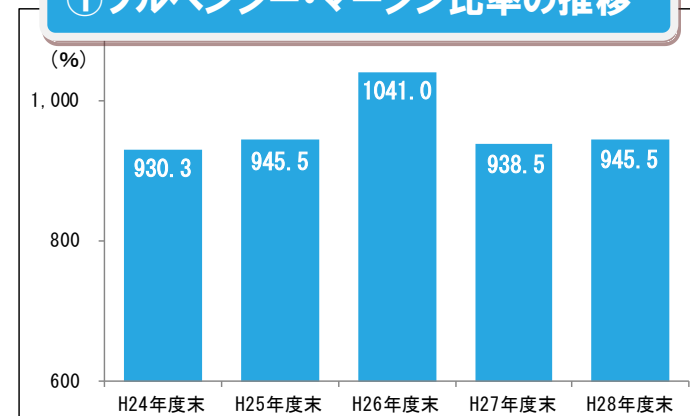
	平成 28 年度末	
		前年度末差
ソルベンシー・マージン比率(注1)	① 945.5	+7.0 ポイント
ソルベンシー・マージン総額(A)	73,284	+5,229
リスクの合計額(B)	15,501	+998

(注1) ソルベンシー・マージン比率=(A)/(1/2×(B))×100

(単位: 億円、%)

平成 27 年度末	
ソルベンシー・マージン比率	938.5
ソルベンシー・マージン総額(A)	68,054
リスクの合計額(B)	14,502

① ソルベンシー・マージン比率の推移



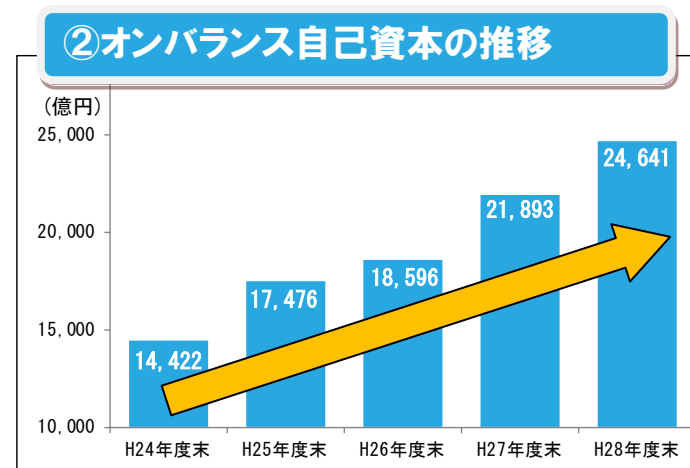
■ 実質純資産額

	平成 28 年度末	
		前年度末差
実質純資産額	95,639	+483
一般勘定資産に対する比率	26.0	△0.6 ポイント

(単位: 億円、%)

平成 27 年度末	
実質純資産額	95,156
一般勘定資産に対する比率	26.6

② オンバランス自己資本の推移



■ オンバランス自己資本(注2)

	平成 28 年度末	
		前年度末差
オンバランス自己資本	② 24,641	+2,747

(注2) 所定の内部留保と外部調達資本の合計額

(単位: 億円)

平成 27 年度末	
オンバランス自己資本	21,893

IV. 明治安田生命単体の業績

6. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

- 一般勘定資産全体の含み損益は、株価上昇に伴い株式の含み益が増加する一方、内外金利の上昇により公社債および外国証券の含み益が減少したことから、6兆409億円（前年度末差1,298億円減少）**①**
- 国内株式含み損益ゼロ水準は、8,000円程度**②**

■ 一般勘定資産全体の含み損益

	平成 28 年度末		前年度末差	平成 27 年度末
	①	60,409		△1,298
一般勘定資産全体の含み損益				61,707
うち時価のある有価証券 ^(注)		56,669	△1,535	58,204
うち公社債		25,877	△5,732	31,610
うち株式		23,482	+5,604	17,877
うち外国証券		6,741	△1,546	8,287

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

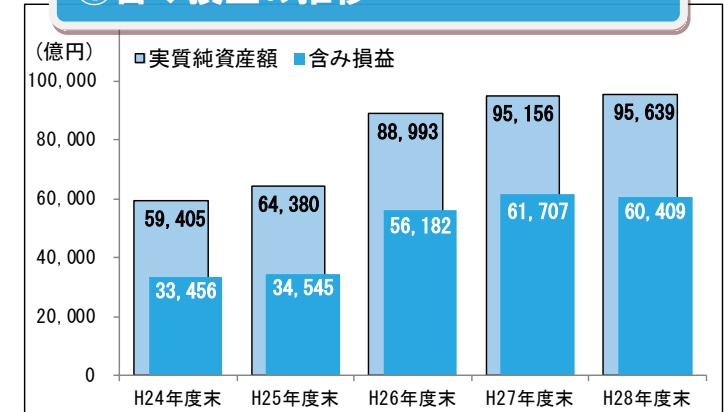
■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動とした場合

	平成 28 年度末	平成 27 年度末
日経平均株価ベース	② 8,000円程度	8,100円程度
TOPIXベース	650ポイント程度	650ポイント程度

(単位：億円)

① 含み損益の推移



IV. 明治安田生命単体の業績

7. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

- 対面によりご契約内容やご請求有無を確認する「定期点検」等を通じた積極的なアフターフォローにより、契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移
- 解約・失効・減額率は、3.63%（前年度差0.18ポイント改善） **①**
- 総合継続率は、13月目・25月目総合継続率ともに高水準を維持 **②**

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況（個人保険・個人年金保険）

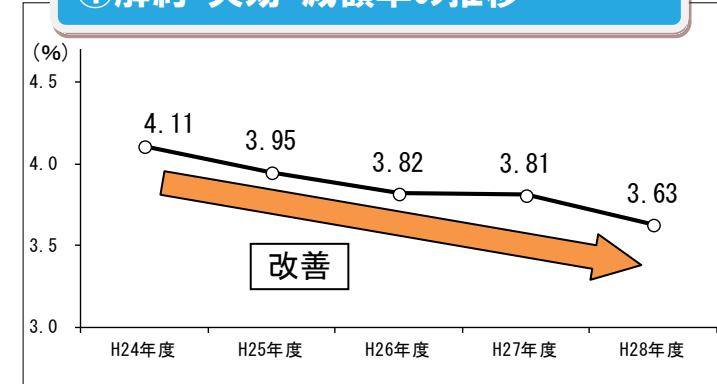
	平成 28 年度	
	前年度差	
解約・失効・減額率	3.63	△0.18 ポイント

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

(単位: %)

平成 27 年度
3.81

① 解約・失効・減額率の推移



■ 総合継続率^(注2)の状況（個人保険・個人年金保険）

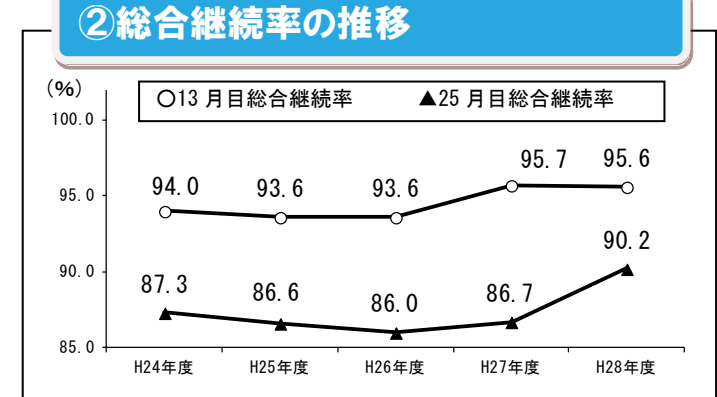
	平成 28 年度	
	前年度差	
13 月目総合継続率	95.6	△0.1 ポイント
25 月目総合継続率	90.2	+3.5 ポイント

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

(単位: %)

平成 27 年度
95.7
86.7

② 総合継続率の推移



V. 社員（ご契約者）配当

平成28年度決算(案)に基づく社員配当

- 個人保険・個人年金保険は、総合保障商品について、配当率を一部引き上げ
- 団体保険・団体年金保険は、すえ置き

■ 個人保険・個人年金保険

- ・危険差配当率の一部引き上げにより、総合保障商品にご加入のお客さまに幅広く還元

[配当金例] ライフアカウントL. A.

	平成29年度支払配当	
		引き上げによる影響額
経過6年（46歳）	12,916円	3,120円

- (注)・上記の配当還元にあたり、平成29年7月の総代会決議を経て、平成28年度未処分剰余金のうち、1,698億円を社員配当準備金として、繰り入れる予定
- ・上記の配当金例は、40歳加入・70歳払込完了・男性・月掛（口座振替料率）、積立終身部分（アカウント）保険料1,000円、新・生活サポート特約（終身型）（基本年金年額240万円）、遺族サポート特約（死亡保険金額600万円）、新・入院特約（入院給付金日額5,000円）の場合
 - ・ご契約の内容によって、お支払いする配当は異なり、ゼロまたは少額となる場合有

■ 団体保険・団体年金保険

- ・団体保険は、保険収支の状況等を勘案し、配当率をすえ置き
- ・団体年金保険は、団体年金資産区分の運用実績等を踏まえ、算定のもととなる配当還元率をすえ置き

VI. 業績見通し

平成29年度業績見通し

○平成29年度業績は、グループ・単体業績ともに「増収増益」の見通し

- ・ 超低金利環境下における積極的な資産の積上げは、将来の逆ざやや国内金利上昇時のリスク増加につながる可能性があるため、計画的な資産・負債のコントロールを継続。一方、今夏に予定している外貨建て保険の販売や第三分野商品の拡販、スタンコープ社の貢献が業績を押し上げ
- ・ 保険料等収入は、グループベースが3兆800億円程度（前年度比7.4%程度増加）、単体が2兆7,800億円程度（同6.2%程度増加）とともに増加の見通し **①**
- ・ 基礎利益は、グループベースが5,100億円程度（同2.7%程度増加）、単体が4,800億円程度（同1.6%程度増加）とともに増益の見通し **②**
- ・ 企業価値（EEV）は、6%程度増加の見通し

■ グループ保険料の見通し

	平成29年度	前年度比
グループ保険料 <small>(注1) (注3)</small>	① 30,800億円程度	+7.4%程度
うち明治安田生命単体	27,800億円程度	+6.2%程度

平成28年度実績
28,663億円
26,158億円

■ グループ基礎利益の見通し

	平成29年度	前年度比
グループ基礎利益 <small>(注2) (注3)</small>	② 5,100億円程度	+2.7%程度
うち明治安田生命単体	4,800億円程度	+1.6%程度

平成28年度実績
4,962億円
4,723億円

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は明治安田生命の基礎利益に、連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル110円

■ 企業価値（EEV）の見通し

	平成29年度末
企業価値（EEV）	6%程度増加

平成29年度始
47,132億円

Ⅶ. ご参考

1. 損益計算書・連結損益計算書

■ 単体損益計算書（要約）

（単位：億円）

	平成 28 年度		平成 27 年度
		前年度比	
経常収益 (A)	35,422	△16.4%	42,354
うち保険料等収入	26,158	△22.1%	33,578
うち資産運用収益	8,160	+3.5%	7,881
経常費用 (B)	32,237	△18.1%	39,345
うち保険金等支払金※	22,040	△4.2%	23,011
うち責任準備金等繰入額	3,236	△64.0%	8,982
うち資産運用費用	1,720	△4.4%	1,800
うち事業費	3,503	△1.5%	3,556
経常利益 (A-B)	3,184	+5.8%	3,009
うち基礎利益	4,723	+2.7%	4,599
特別損益	△623	—	△375
法人税等合計	223	△50.3%	449
当期純剰余	2,338	+7.0%	2,184

■ 連結損益計算書（要約）

（単位：億円）

	平成 28 年度
経常収益 (A)	38,754
うち保険料等収入	28,663
うち資産運用収益	8,714
経常費用 (B)	35,605
うち保険金等支払金	23,832
うち責任準備金等繰入額	3,318
うち資産運用費用	1,970
うち事業費	4,397
経常利益 (A-B)	3,148
うち基礎利益	
特別損益	△624
法人税等合計	278
当期純剰余	(注) 2,237

※保険金等支払金の内訳

（単位：億円）

	平成 28 年度		平成 27 年度
		前年度比	
保険金等支払金	22,040	△4.2%	23,011
うち保険金・給付金	9,611	△1.1%	9,720
うち年金	6,952	△0.1%	6,959
うち解約返戻金・その他返戻金	5,421	△13.6%	6,273

(注) 「親会社に帰属する当期純剰余」を表示

Ⅶ. ご参考

2. 貸借対照表・連結貸借対照表

■ 単体貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	平成 28 年度末		平成 27 年度末
		前年度末差	
資産の部合計	375,614	+9,847	365,766
うち現預金・コールローン	4,135	+20	4,114
うち有価証券	308,634	+13,274	295,359
うち貸付金	46,819	△2,678	49,498
うち有形固定資産	8,824	△103	8,927
うち無形固定資産	769	+41	728
負債の部合計	335,038	+6,237	328,801
うち保険契約準備金	317,316	+3,196	314,120
うち責任準備金	313,832	+3,222	310,609
うち社債	3,533	+1,150	2,383
うちその他負債	4,011	+536	3,474
うち価格変動準備金	5,775	+558	5,216
純資産の部合計	40,576	+3,610	36,965
うち基金・基金償却積立金	8,300	+1,000	7,300
うち剰余金	5,383	+188	5,195
うちその他有価証券評価差額金	25,338	+2,458	22,880

■ 連結貸借対照表（要約）

（単位：億円）

	平成 28 年度末
資産の部合計	404,127
うち現預金・コールローン	5,955
うち有価証券	320,460
うち貸付金	54,226
うち有形固定資産	9,231
うち無形固定資産	5,173
負債の部合計	363,684
うち保険契約準備金	343,020
うち責任準備金	333,327
うち社債	4,097
うちその他負債	5,312
うち価格変動準備金	5,782
純資産の部合計	40,443
うち基金・基金償却積立金	8,300
うち剰余金	5,147
うちその他有価証券評価差額金	25,425

※資産の部合計は、37兆5,614億円（前年度末比2.7%増）となりました。主な資産構成は、有価証券30兆8,634億円（同4.5%増）、貸付金が4兆6,819億円（同5.4%減）です。負債の部合計は、33兆5,038億円（同1.9%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は31兆7,316億円（同1.0%増）となりました。純資産の部合計は、4兆576億円（同9.8%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,300億円（同13.7%増）、その他有価証券評価差額金は2兆5,338億円（同10.7%増）となりました。

Ⅷ. トピックス

1. 明治安田生命3カ年プログラム「MYイノベーション^{ニ-ゼ-ロニ-ゼ-ロ}2020」等

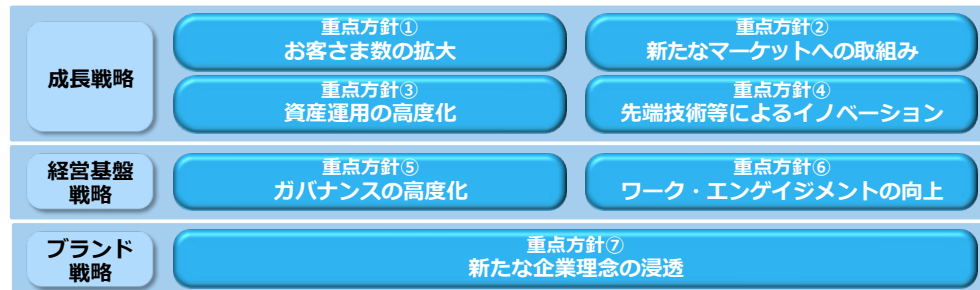
「MYイノベーション^{ニ-ゼ-ロニ-ゼ-ロ}2020」

- ◆MYイノベーション2020
 - ・平成29年4月から3カ年プログラム「MYイノベーション2020」がスタート
 - ・新たな企業理念「明治安田フィロソフィー」の実現に向け、「イノベーション」(変革・創造)を興すべく、「中期経営計画」および「企業ビジョン実現プロジェクト」を推進
 - ・当社がアフターフォローを直接ご提供するお客さま数の飛躍的な拡大を図りつつ、「成長性」・「収益性」・「健全性」のバランスを取りながら、企業価値の安定的かつ着実な向上に向けた取組みを推進

企業価値の安定的かつ着実な向上を果たし、新たな企業理念の実現をめざす

中期経営計画

- ◇お客さま志向とコンプライアンスの徹底を前提に、成長戦略・経営基盤戦略・ブランド戦略を推進
- ◇重点方針ごとにイノベティブな取組みを織り込むとともに、先端技術等によるさらなるイノベーションを実現

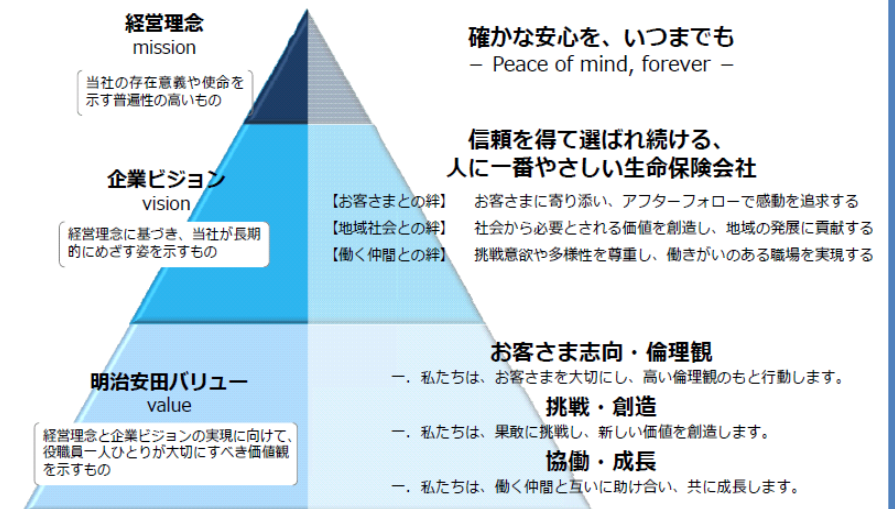


◇新たな企業理念、とりわけ企業ビジョンの実現に向けて従業員一人ひとりが積極的・主体的に行動する風土を醸成

企業ビジョン実現プロジェクト

企業理念の刷新

- ◆新企業理念「明治安田フィロソフィー」
 - ・当社が長期的にめざす方向もふまえ、新3カ年プログラムのスタートにあわせて、シンプルでメッセージ性の高い企業理念に刷新
 - ・当社が長期的にめざす姿を示す「企業ビジョン」は、
「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」



(平成29年3月15日付リリース「明治安田生命3カ年プログラム「MYイノベーション2020」(2017年4月~2020年3月)を策定」より抜粋)

VIII. トピックス

2. お客さまへのアフターフォローの取組み

- ◆ 「MY安心ファミリー登録制度」
 - ・ 超高齢化社会の進展や大災害をふまえ、ご契約者さま以外の連絡先（第二連絡先）を登録し、ご契約者さまにご連絡がつかない場合に、第二連絡先を通じてご契約者さまの連絡先をご確認させていただく制度
 - ・ 登録状況は、ご高齢のご契約者さまを中心として、約133万件（平成29年4月末現在）
- ◆ 「MY長寿ご契約点検制度」
 - ・ 一生涯の保障をより確かなものにするために、平成27年4月から開始
 - ・ 長寿の節目である、77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）、108歳（茶寿）、111歳（皇寿）の祝賀を迎えられたご契約者さまに「保険金等のご請求」や「ご連絡先の変更」の有無の確認を実施
 - ・ MYライフプランアドバイザーを中心とした、定期的な訪問活動等に加えて行なう当社独自の制度



いつのまにか、家に帰ることが
親孝行になってしまった。

90歳、99歳、108歳、111歳のお客さまへの
お祝いや確認や訪問による確認結果
99.6%

 明治安田生命

今までも、これからも、私たちは
会いに行く生命保険会社です。

MY長寿ご契約点検制度
 長寿の節目を迎えられるご契約者さまに、保険金等のご請求やご連絡先変更の有無を確認し、その後のお手続きまでしっかりサポートします。

77歳(喜寿)	90歳(卒寿)	99歳(白寿)	108歳(茶寿)	111歳(皇寿)
お祝いや確認による訪問	お祝いや確認や訪問による訪問			

お祝いや確認でご連絡がつかないお客さまには、ご家族の住所が変更がございましたら、お電話の住所変更が有効いたします。

私たちにできること、それは「前の保険加入を知らなかった」、「気持ちの整理がつかず先延ばしにしていた」などの理由でご請求がなかった保険金・給付金のお手続きを徹底的にご案内すること。
 2016年3月までの1年間で、対象のお客さま約9万人のうち、90歳以上では98.6%、77歳以上では96.9%の方のご契約を確認いたしました。昨年4月から引き継ぎ、新たに対象となったお客さま約9万人のご契約を確認しています。
 これからも確かなお支払いをするために、明治安田生命は今後も会いに行きます。

アフターフォローで、保険を変えます。

写真：千歳線 いすみ鉄道 新田原駅～上野原駅間 ©この広告に関するお問い合わせ・ご意見・ご質問 コミュニケーションセンター ☎020-663-332 月曜～金曜9:00～18:00/土曜9:00～17:00(いずれも祝日・年末年始を除く)



じちゃん、
最近、おさんと
連絡とって？

今度、一緒に帰るか。

アフターフォローで、保険を変えます。

 明治安田生命

アフターフォロー

VIII. トピックス

3. 「明治安田生命Jリーグ」の取組み



◆2017シーズンで3年目を迎えた「明治安田生命Jリーグ」

- ・「地域に根差したスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに賛同し、平成27年1月にタイトルパートナー契約を締結
- ・今年度も、全国の86支社等において「明治安田生命Jリーグ」に所属する全54クラブ等(※)とスポンサー契約を締結
- ・2016シーズンにおいて、当社従業員は地域のみならずとともにスタジアムに足を運び、のべ約22万人が各試合会場で地元のJクラブ等を応援

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ

◆全国各地で小学生を対象としたサッカー教室など、各種イベントを開催

- ・2016シーズンは、Jリーグや各Jクラブ等の全面協力を得て、地域のお客さま向けのイベントを全国で700回以上開催
- ・小学生を対象にしたサッカー教室は、全国で173回開催し、約1万4千人のお子さまや保護者の方々が参加

◆Jリーグや地元のクラブへの応援を通じて、地域社会の活性化に貢献

- ・Jリーグの後援および各パートナー企業の協力による社会人向けフットサル大会など、Jリーグパートナー企業とタイアップしたイベントや、各クラブのスポンサー企業を含めた異業種交流会の開催等を通じて、地域のみならずとともにJリーグや地元クラブへの応援意識を高める取組みを強化
- ・「JリーグやJリーグクラブ等を応援するファン・サポーターの輪を広げ、地域社会の活性化に貢献したい」という想いを込め、「明治安田生命Jリーグサポートプロジェクト」を発足。本プロジェクトの参加者には、Jリーグタイトルパートナーだからこそ提供できる、さまざまな魅力的な特典を提供



VIII. トピックス

4. 「お客さま志向の業務運営方針」を策定

◆ 新たな企業理念「明治安田フィロソフィー」に基づくお客さま志向の取組みのさらなる推進を図るため、お客さま志向の取組方針となる「お客さま志向の業務運営方針」を平成29年4月1日付で制定

・ 「お客さま志向の業務運営方針」の制定背景

当社は、「確かな安心を、いつまでも」という新たな経営理念のもと、「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」を企業ビジョンとして掲げ、その実現に向けて全役職員が大切にすべき価値観の一つとして「お客さま志向」を定めるとともに、平成29年度からスタートする中期経営計画（MYイノベーション2020）においても、当社がこれまで取り組んできたお客さまを大切にす会社としての取組みを継承・発展し、さらなるお客さま志向の取組みを推進していく方針。今般、公表された「顧客本位の業務運営に関する原則」が、当社の取組姿勢に沿ったものであることから、これを受け入れ、「お客さま志向の業務運営方針」を制定

「お客さま志向の業務運営方針」の構成

1. お客さま志向の徹底

2. 「お客さまの声」を経営に活かす取組み

3. お客さまのニーズに対応した最適な商品・サービスの提供

4. ご加入時のお客さまへの情報提供の充実

5. お客さまに寄り添ったアフターフォローの充実

6. 利益相反の適切な管理

7. お客さま志向の取組みの確保

（ご参考）

明治安田生命公式ホームページ：http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/corporate_info/customer_business_policies/index.html